

中野区の現状に関する参考資料（令和元年 8 月 28 日 追加資料）

特定年齢の障害者手帳所持者の世帯状況について

身体障害者手帳

令和元年 7 月 1 日現在の身体障害者手帳所持者数／8,197 人
50 歳、51 歳の身体障害者手帳所持者の状況／176 人

身体障害者手帳所持者の状況（単位：人）

男	女
128	48

障害内容（単位：人）

視覚	聴覚・音声	肢体	内臓	合計
15	8	57	96	176

※肢体不自由は脳血管障害、疾患、頭部外傷、骨折等によるもの

※内臓疾患は免疫機能障害が 53 人となっている。

本人が同居している世帯員（単位：世帯）

	単身	父母	配偶者	その他	合計
世帯数	42	26	44	11	123
比率	34.1%	21.1%	35.8%	8.9%	

（※免疫機能障害者 53 人は単身世帯（46 人）の比率が 86.8%と圧倒的に高いため除く）

※単身世帯は視覚障害、聴覚障害に加え肢体不自由、内臓疾患の 3 級以下の軽度障害者に多い。父母と同居は 21%ほどであるが父母の年齢は大半が 80 代となっている。

※配偶者と同居の場合は 15 歳～20 歳の子どもを持つ家庭が多くなっている。

※123 人中、障害福祉サービスを利用している者は身体障害者手帳 1 級の重度障害者を中心に 19 人と 15%程度が利用している。このうち単身者は 3 人で視覚障害者 2 人、肢体不自由 1 人となっている。

10 年後の予測

障害者本人の障害状況については大きな変化は予想されない。父母（70 代後半から 80 代）が主な介護者となっている世帯では、介護者が亡くなる等によって新たな介護ニーズが生ずると予想される。また、父母が介護サービスを利用し、子どもが障害福祉サービスを利用するケースが多くなることも想定される。

知的障害者

令和元年7月1日現在の愛の手帳所持者数／1,467人

50歳、51歳、52歳の愛の手帳所持者の状況／68人

愛の手帳所持者の状況（単位：人）

男	女
48	20

障害程度（単位：人）

1度	2度	3度	4度
2	22	22	22

本人が同居している世帯員（単位：世帯）

	単身	父母	配偶者	その他 (兄弟)	合計
世帯数	8	20	0	1	29
比率	27.6%	69.0%	0%	3.4%	

(※施設入所者等39人を除く)

※単身者8人のうち7人が、障害程度が軽度の4度。

※知的障害者の場合は地域で単身生活を送る者は12%程度で、身体障害、精神障害に比べ軽度障害者に限られている。

障害福祉サービスの利用状況（単位：人）

入所施設	グループホーム	療養介護等	合計
24	13	2	39

※1度、2度の最重度、重度知的障害者24人のうち21人は、入所施設又はグループホームに入居している。

※通所サービス等障害福祉サービスを利用している人は57人（83.8%）に達している。

※障害福祉サービスを利用していない11人のうち単身者は5人である。

10年後の予測

知的障害者の場合、重度障害者は既にこの年齢で入所施設又はグループホームに入居するケースが大半である。中度、軽度知的障害者も介護者である親が亡くなった後は、グループホームへの入居希望者が増えていくものと思われる。

精神障害者

令和元年7月1日現在の精神保健福祉手帳所持者数／3,170人

50歳、51歳の精神保健福祉手帳所持者の状況／154人

精神保健福祉手帳所持者の状況（単位：人）

男	女
85	69

障害程度（単位：人）

1級	2級	3級
4	66	84

本人が同居している世帯員（単位：世帯）

	単身	父母	配偶者	その他 (兄弟)	合計
世帯数	93	32	17	12	154
比率	60.4%	20.8%	11.0%	7.8%	

(※入所者等39人を除く)

※単身生活を送る者は3級53人、2級39人、1級1人となっており、軽度障害者の比率が高くなっている。身体、知的障害者に比べ配偶者を有する者が多くなっている。

10年後の予測

精神保健福祉手帳所持者は7月1日現在、3,170人となっており、毎年200人程度増加し、こうした増加傾向は今後も続くものと予測される。

精神障害者は単身生活を送るケースが多いことから、精神障害者数の増加に伴い、居宅の清掃などの家事援助サービスや自立支援給付における居宅介護（ホームヘルプサービス）の利用者が増加すると見込まれる。

なお、現在すでに、居宅介護の利用者は、身体障害者よりも精神障害者が多い。